

わが

「大地と農業を守り、育て、未来へ つないでいくまち」の実現を目指して

豊かな自然と新田開発の 歴史が息づくまち

つがる市は、津軽平野北部中央から西に位置し、南方に秀峰「岩木山」を望む一大穀倉地帯が形成される田園都市です。西方は日本海に面し、長大な「七里長浜」と並行する丘陵地「屏風山」に点在

する湿原では、

ニッコウキスゲ
やノハナシヨウ

ブの群落のほか、
貴重な植物が多
く見られます。

藩政時代初頭、

弘前藩は岩木川
下流域を中心と
した開発を進め、
広須新田と木造
新田を開きまし



四季の移ろいを感じさせる田園風景

た。かつて一面不毛の湿地帯であったこの地は、先人たちの想像を絶する偉業のおかげで、現在の豊かな水田地帯に築き上げられました。

岩木山を背景とした美しい田園風景は、初夏のみずみずしい緑や秋の黄金色の稲穂など季節ごとに表情を変え、本市自慢の四季の風物詩となっています。

日本有数のメロン産地

青森県のメロンの生産量は年間1万tを超え、全国5位。そのうち本市の生産量は、県全体の8割弱を占めています。つがる市産メロンは、砂丘地帯特有の寒暖差により、高品質で香りが良く、とろけるような甘さが特徴です。主力品種は、ネット系の「タカミ」と「レノン」。ハウス栽培では7月上

旬から、露地栽培は9月上旬まで収穫され、夏の間バランス良く安定した出荷を行っています。

ハイテク設備を導入した選果場では、複合型光センサーで糖度・熟度・外観など20項目を測定し選別。1玉ずつ識別番号が付ければ、確かな品質管理が行われています。さまざまな厳しい基準をクリアした糖度15度以上のメロンを



鈴なりの水耕栽培メロン

「つがるブランドメロン」として、さらに糖度17度以上の形状・網目が美しい極上のメロンは「プレミアムメロン」として出荷しています。メロン農家の情熱と、きめ細かい管理が極上のメロンを育てています。

本市での収穫は夏季に限られ、通年での栽培、さらには担い手の育成や省力化が課題でした。令和2年度から水耕栽培実証試験をスタートさせ、IoTを導入したメロンの通年栽培に取り組んでいます。厳しい冬を乗り越えて育ったメロンは仕上がりも良く、栽培技術の確立に一步ずつ前進しています。

農業経営支援の充実・強化

農業を基幹産業とする本市において、米価下落や後継者不足など農業を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いています。農業経営を持続的に発展させていくためには、もうかる農業を実現していくことが重要であることから、



遮光器土偶をモチーフにしたJR木造駅

本市では農産物の高品質・高付加価値化によるブランド化、6次産業化の推進および担い手の確保・育成を図ってまいりました。

今後は産地の競争力強化に向け、スマート農業導入に向けた農業機械の購入費助成や衛星測位システム（GNSS）基地局設置など、高収益作物等の生産拡大および農作業の効率化・省力化を図るための取り組みを推進してまいります。

世界遺産を観光資源に

令和3年7月、本市の「亀ヶ岡石器時代遺跡」と「田小屋野貝塚」を構成資産とする「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録されました。

亀ヶ岡石器時代遺跡は、「亀ヶ岡文化」の名称の由来にもなった縄文時代晩期の遺跡で、世界

的に有名な遮光器土偶（国指定重要文化財・東京国立博物館所蔵）が出土した遺跡として知られています。

遮光器土偶は、宇宙人を想像させるような大きな目と美しい文様で飾られた体で、太古のミスティアスを感じさせます。

本市は、両遺跡の保存とその価値を世界に発信し続ける義務があることを改めて認識し、観光客の受け入れ態勢の充実などに積極的に取り組んでまいります。

魅力あるまちづくりの実現に向けて

未来に向けた活力と魅力あるまちづくりの実現を目的として、平成31年4月、東京・神楽坂につながる市東京事務所を開設しました。

首都圏からの移住や新規就農に関する相談窓口、企業誘致活動のほか、関係人口の創出と市の情報発信など、人口減少対策に機動的に取り組む旗振り役を担っています。

また、同年7月、日本初のメロン専門工房としてアンテナショップ「果房メロンとロマン」を東京事務所併設でオープンいたしました。季節に応じた限定メニューが

味わえるほか、メロンを五感で楽しめるカフェとして連日にぎわっています。

本市の強みを前面に押し出し、「新田の歴史が彩る日本のふるさと」つがる市をもっと強く、もっと豊かに、そしてもっと楽しいまちに導き、市民の誰もがいつまでも暮らしていきたいと思えるまちづくりの実現に向けた取り組みを進めてまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 253.55km²
- ◆ 人口 3万7777人
- ◆ 世帯数 1万3529世帯

〔将来都市像〕 未来に希望を感じる活力あるまち

〔まちの特徴〕 縄文文化が華ひらき、新田開発の歴史が彩る、豊かな自然と人情味があふれるまち

〔市町村合併〕 平成17年2月11日、木造町、森田村、柏村、稲垣村、車力村の1町4村が対等合併



つがる市長
倉光弘昭



〔特産品〕 メロン、スイカ、リンゴ、コメ、ネギ、ゴボウ、トマト、ナガイモ、ブランド農産物加工品、十三湖産シジミ

〔観光〕 亀ヶ岡石器時代遺跡・田小屋野貝塚、高山稲荷神社、ベンセ湿原、つがる地球村

〔イベント〕 春まつり、ネブタまつり、チエスポローカップ水泳駅伝、馬まつり



「果房メロンとロマン」提供メニュー

※面積は国土地理院「全国都府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

魅力ある・誇れる神栖市を目指して

神栖市は、茨城県の東南端に位置し、東側は太平洋に、南側・西側は利根川を経て千葉県に、北西側は鹿嶋市や潮来市に接した南北に長い形状をしています。本市の北東部一帯は鹿嶋港や鹿島臨海工業地帯が整備され、南部は波崎漁港を中心に漁業が盛んです。「はさ

き漁業協同組合」の所属船は、まさき網漁業のイワシ、サバを主としての属人漁獲量で全国第1位を誇り、水産加工品などが特産品となっています。鹿嶋港を中心とした鹿島臨海工業地帯には、石油化学をはじめとした180社余りの企業が立地し、工業製造品出荷額

は茨城県第1位で国内有数のコンビナート群を形成しています。



鹿嶋港を中心とした鹿島臨海工業地帯



出荷量日本一を誇る特産品のピーマンと水揚げでにぎわう波崎漁港

気候は四季を通じて比較的温暖な地域となっており、温暖な気候を生かして栽培されるピーマンは全国第1位の出荷量を誇り、近年は「かんしょ」（サツマイモ）栽培も拡大していま

す。広い砂浜ときれいな水が特徴の市内2カ所の海水浴場（日川浜・波崎）では、海水浴はもちろんな年間を通じて県内外からマリンスポーツを楽しむ多くの人が訪れています。内陸部では質・量共に充実した運動施設が整備され、幅広いスポーツを楽しむことができることから、スポーツ合宿の聖地として全国的に知られています。

神栖市を医療人材が育ち、集まるまちへ

本市のある茨城県鹿行保健医療圏の医師数は全国でも最下位ランクであり、茨城県内でも最も医師数が少ない地域であることから、本市では医師不足などの地域医療問題を最重要課題と捉え、重点的に取り組んでいます。医療過疎地からの脱却を目指し「神栖市を医



東国三社の一つで歴史ある息栖神社

療人材が育ち、集まるまち」とするため、指導医や若手医師が活躍できる環境を整備し、市内医療機関への就業の促進を図る「神栖市若手医師さらっせプロジェクト」などを推進するとともに、各種支援制度の拡充などにより、地域医療対策を力強く着実に前進させてまいります。

「まちのにぎわいづくり」に向けて

本市には、「神栖」の地名の由来となった、東国三社の一つで歴史



市民の憩いの場である神之池緑地の桜

ある「息栖神社」と、豊かな水をたたえた「神之池」があります。東国三社とは、息栖神社、鹿島神社、香取神宮の総称です。歴史ある「息栖神社」は本市の誇りであり、大切な地域資源であることから、「息栖神社」を核とした広域観光の整備に向け、神社前の市道や船だまりなどの景観整備を進めています。市民の憩いの場である「神之池緑地」では、ランニングステーションや遊具・休憩施設の整備を検討するとともに、桜の名所づくりとしても、枯れ木の撤去や気候に適した桜の植樹など、多くの世代に愛される場所となることを目指し取り組んでいます。

また、市内には、官民合わせて約100面のサッカー場が整備されるなど、各種運動施設が充実しています。こうした地域資源を生

かし、さらなる交流人口の拡大や地域活性化を目指して「スポーツツーリズム事業」を推進しています。「スポーツするなら神栖でしょ!」をキャッチコピーに、各種スポーツ大会や合宿の開催支援に取り組み、本市のスポーツによるブランド化を図り、他の観光施策と合わせて進めることで、より多くの人に本市へ訪れていただき、地域の活性化につなげていきたいと考えております。

安心安全に暮らせるまちへ

本市では「子育て日本一」という目標を掲げ、安心して子どもを産み育てられる環境の整備を推進しています。

保健師と子育てコンシェルジュを配置し、妊産婦や子育て中の保護者に対して相談、情報提供や支援プランの作成を行う「子育て世代包括支援センター」をスタートさせるとともに、近年増加する児童相談や虐待などに対応するための機能を拡充し、子どもおよび妊産婦の福祉に関する支援機能を一体的に行う「子ども家庭総合支援拠点」を設置しました。認定こども園、保育園、児童館などの子育

て施設の充実についても取り組んでおり、妊娠期から出産・子育て期にわたる切れ目のない子育て支援を展開することで、安心して子どもを産み育てられる環境の整備を進めてまいります。防災・減災対策では、地域の防災拠点として「かみす防災アリーナ」が市の中心部に完成いたしました。また、防災士の資格を習得した市民有志43名による「神栖市防災士協議会」を結成することができました。津

プロフィール

- ◆ 面積 146.97km²
- ◆ 人口 9万5011人
- ◆ 世帯数 4万2980世帯

〔将来都市像〕魅力ある・誇れる神栖市
〔まちの特徴〕鹿島灘と利根川に囲まれ、豊富な水資源と温暖な気候に恵まれた緑豊かな潤いのあるまち

〔市町村合併〕平成17年8月1日 神栖町・波崎町が合併



神栖市長
石田 進



〔特産品〕ピーマン、千両、若松、さくらぼし、花卉
〔観光〕息栖神社、神之池緑地、神栖中央公園、港公園、海水浴場（日川浜・波崎）、1000人画廊
〔イベント〕かみす桜まつり、かみす舞っちゃげ祭り、神栖花火大会、かみすフェスタ・消費生活展、菊花展、神栖市芸術祭

波対策では「神栖市津波避難施設整備基本計画」を策定し、津波からの避難困難地域における高台の建設に向け取り組んでおり、引き続きハード面・ソフト面の充実を図り減災防災対策を進めてまいります。

今後も市民の皆さんの生活に密着した各種施策を一体的に進め、市民の皆さんと共に「魅力ある・誇れる神栖市」の実現を目指し、市政運営にまい進してまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「子育て・教育は稲沢で！」 子育て支援で魅力あるまちづくり

美しい緑があふれ
悠久の歴史が息づくまち

天下の奇祭として有名な「**国府宮はだか祭**」で知られる稲沢市は、濃尾平野のほぼ中央に位置し、かつては尾張国の政治・文化の中心地として**国衛**が置かれていた歴史あるまちです。

江戸時代には東海道と中山道を

結ぶ美濃路の宿場町としてにぎわいました。そのため市内各地に



尾張地方に春を呼ぶ天下の奇祭、国府宮はだか祭



全国でも珍しい河川砂丘で行われる稲沢サンドフェスタ砂の造形展

は、かつての稲沢の隆盛を今に伝える史跡や文化財が数多く残されています。

市域の西に接する木曽川によって堆積された肥沃な土壌と温和な気候を生かした農業も盛んで、植木や苗木の産地として発展してきました。

「子育て・教育は稲沢で！」

将来を担う子どもたちは社会の宝であり、本市が持続的に発展するためには、子育てや教育環境の充実が最重要課題であると認識し、「子育て・教育は稲沢で！」との宣言の下、強い思いで各種施策や設備の充実に取り組んでいます。

本市では、国が幼児教育・保育の無償化を進める以前から、給食費の補助や第2子（所得制限あり）と第3子以降の保育料を無償化し、



子育て支援の中核施設 中央子育て支援センター

子育て世帯の負担軽減に努めてきました。また、令和2年度には中央子育て支援センターを整備し、同センター内で、児童や家庭に関するさまざまな相談・支援を行っています。今後も多胎児育児支援や障害児保育の拡充、児童発達支援センターの開設を予定するなど、子育て世帯に寄り添った支援ができる

よう施策の推進に努めていきます。

子育て支援は、子育て世帯のためだけではなく、地域社会全体にとって、未来への投資であるといえます。若い世代が安心して子育てできる環境を整備することで、「子育て・教育は稲沢で！」宣言が市内外に浸透するよう取り組んでまいります。

児童の教育と安全をサポート
セーフティ・プラスワン

本市では、全ての小・中学校で特色ある学校づくりに積極的に取り組み、地域の教材などを生かしながら地域に根づいた教育活動を推進し、子どもたちの学びの充実を図っています。

そのような中、平成30年度から、愛知県内では他市町村に先駆けて、「セーフティ・プラスワン」と銘付けた事業を小学校で展開しています。これは、低学年の6時間目に多様な学習活動を実施することで、少人数での下校を解消し、全学年の児童が一斉下校を行うことで、下校



2016年に行われたリオデジャネイロオリンピックの聖火リレーでオリンピア市内を走る稲沢市の中学生

本市と姉妹都市提携をしているギリシャ共和国のオリンピア市は、ギリシャ共和国の首都アテネから西方約300kmのペロポネソス半島の西部に位置し、水が豊かで温暖な気候に恵まれ、オリーブ、イチジク、ブドウなどが栽培されています。古代オリ

日本の都市で唯一 オリンピック聖火リレーに参加

令和3年度からは、全ての小・中学校に学校運営協議会を設置し、学校、保護者、地域住民が一体となつて学校運営に取り組む体制を整えました。皆さんの声を積極的に生かし、特色ある学校づくりを一層進めてまいります。

時の安全確保と学習支援を図るといふ、本市の教育の特徴的な取り組みとなっています。低学年が延長した時間では、授業を進めたり高度な学習を強いたりせず、情操教育や社会性の育成など、子どもたちにとって有意義な時間となるよう各校が創意工夫するとともに、非常勤講師を配置して、教師の負担にもならないよう配慮しています。

オリンピック発祥の地であり、オリンピア遺跡のヘラ神殿前ではオリンピック聖火採火式が行われます。オリンピア市とは昭和62年に姉妹都市提携を行い、以来、本市からはオリンピア市での聖火採火式への参加や、日本の都市で唯一、オリンピア市内での聖火リレーに参加し、本市の中学生が走らせていただいています。また、オリンピア市からは中学生がホームステイに来るなど、30年以上にわたつてさまざまな交流を行っています。

令和2年3月には、東京2020オリンピック競技大会の聖火採火式・リレーに向けて市内の中学生18名をオリンピア市へ派遣する予定をしていましたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により中止せざるを得なくなりました。派遣を楽しみにしていた中学生の中には涙を流して残念がる方もいましたが、昨年、国内での聖火リレーにおいて本市がルートに選ばれ、その最初の区間を、オリンピア市へ派遣予定だった皆さんが全員で走ることができました。今後も多くの中学生在がこの貴重な経験が得られるよう、オリンピア市との友好関係を一層深めてまいります。

「ずっと稲沢市で暮らしていきたい」

まちの発展と共に確実に増加を続けていた人口は、平成25年をピークに減少を続けており、人口減少は、避けて通れない最大の課題であると認識しています。名古屋駅から鉄道で10分台という恵まれた立地を生かし、リニア中央新幹線開業を視野に、本市の玄関口であ

る名鉄国府宮駅周辺の再整備と新たな住居系市街地の形成に取り組み、定住促進を図っていきます。ウィズ・アフターコロナの状況下にあつても、市民の皆さんに幸福（しあわせ）を感じていただけるよう、今後も、「ずっと稲沢市で暮らしていきたい」と感じていただけの魅力あふれるまちづくりに取り組み、着実な歩みが続けてまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 79・35km²
- ◆ 人口 13万5271人
- ◆ 世帯数 5万5725世帯

〔スローガン〕 ステージアップ 稲沢

〔まちの特徴〕 名古屋近郊に位置し、木曾川に面した肥沃な土壌と温和な気候によって古くから植木・苗木の産地として栄え、水と緑に恵まれたまち

〔市町村合併〕 平成17年4月1日 祖父江町、平和町を編入合併



稲沢市長
加藤錠司郎



〔特産品〕 ぎんなん、植木・苗木、羽二重餅、金時生姜

〔観光〕 サリオパーク祖父江、平和桜ネットワーク、織田信長生誕の地 勝幡城跡

〔イベント〕 国府宮はだか祭、いなざわ植木まつり、稲沢あじさいまつり、稲沢サンドフェスタ（河川砂丘における砂の造形展）、そぶえイチヨウ黄葉まつり、稲沢イルミネーション

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

新しい未来の中間市再生街づくりに向けて

ちよūdōい生活宣言都市
なかま

中間市は、福岡県の北部に位置し、北九州市に隣接している4km



遠賀川水源地ポンプ室（写真提供：日本製鉄㈱九州製鉄所）

四方の小さなまちです。市の中央を一級河川である遠賀川が南北に流れ、その東側には閑静な住宅地と商業地が形成され、西側にはのどかな田園風景と工業団地が立地しています。市制施行以来、石炭のまちから快適な住宅都市へと姿を変えた本市は、JＲと私鉄の駅があり、北九州市はもちろん福岡市への移動も快適なコンパクトシティです。

世界遺産のあるまち中間

平成27年7月、日本政府が推薦した「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が世界文化遺産に登録されました。その「明治日本の産業革命遺産」のうち、製鉄・製鋼分野の構成資産の一つが、本市に所在する「遠賀川水源地ポンプ室」です。このポ

ンプ室は明治43年に操業を開始し、100年以上経った現在もなお、役割は変わることなく、鉄づくりのための水を送り続けています。

本市ではこの世界遺産を筆頭に、観光による地域活性化に取り組んでいます。ありのままの風景を楽しみながら歩く「フットパス」は、本市の魅力がたくさん詰まったコースが設定され、自然や文化財が多く残るコースや炭鉱のまちとして栄えた市の中心を巡るコース、世界遺産「遠賀川水源地ポン

プ室」を巡るコースもあり、全国大会も開かれるなど、全国から多数のフットパスファンが訪れ、フットパスのまちとして広く認知されています。

また、春には池のボートから眺める赤橋と桜の調和が美しい、市内最大の都市公園である「垣生公園」、イースター島のモアイ像やスフィンクスをはじめとした、世界中の有名な石像のレプリカ30体余りを並べたユニークな青空博物館である「屋根のない博物館」があるなど、日本にいながら世界の名所も体験できるまちです。

いつまでも健康でいるために「人とまち再生力日本一宣言」

本市は、九州大学都市研究センター・株式会社健康資本と共に持続可能な発展に向けて産学官が協力する「人とまち再生力日本一宣言」を行いました。この宣言は、地域包括ケアシステムの推進、自立支援・重病化防止の取り組みの推進、介護現場の革新、正しい医



屋根のない博物館 モアイ像の石像

学情報の啓発活動の強化を柱とし、市民の健康寿命を延ばし、医療費・介護費の削減に寄与することで持続可能なまちづくりに貢献する事業です。本プロジェクトは20以上の企業・大学が参加する予定で、今後、医学住宅の推進やオンライン診療・服薬指導サービスの提供などをはじめとしたさまざまな取り組みを行い、いつまでも健康でいられるまちづくりを推進します。

仲間と共に豊かな未来ある 中間市へ

石炭のまちとして栄えた本市も、エネルギー革命による炭鉱の閉山に伴い、人口減少が進み、その後も新たな産業が生まれず、加えて少子高齢化や社会保障費の増大、公共施設の修繕費や管理費などにより、本市の財政は厳しい状態になりました。そのため、市立病院の閉院や老朽化が著しい公共施設、利用者の少ない出張所を廃止し、既存の公共施設の見直しを行うなど、支出の見直しを図るとともに、財源確保のため、収入増にも力を入れました。特にふるさと納税では、九州・福岡で人気メ

ニューであるもつ鍋やめんたいこ、次世代光触媒を用いた空気清浄機など、品ぞろえを拡充し、併せてイベントや広報を通じて本市の魅力を全力で発信しPRすることにより、ふるさと納税の寄付金額が3年で4倍の12億円になりました。

また、将来を見据え新たな産業の確立や財源確保のため、災害対策や衛生管理、SDGsに関することなど、さまざまな社会問題に対してアプローチし、産学官連携で取り組みを推進しています。そのうちのひとつが、直接投入型ディスプレイの社会実験です。

直接投入型ディスプレイはキッチンからでる生ごみをディスプレイ



直接投入型ディスプレイの社会実験

ザで粉碎し、直接下水道へ排水するシステムです。この社会実験により、高齢者のごみ出し作業の軽減、ごみの減量化による行政コストの低減、住民生活の利便性の向上、環境問題への寄与が期待され、その結果を九州大学都市研究センターに評価していただきます。さらに、既存のマンホール蓋を広告媒体として活用した「中間市マンホール広告事業」を行いました。この事業は九州初の取り組み

プロフィール

- ◆ 面積 15・96 km²
- ◆ 人口 4万290人
- ◆ 世帯数 2万409世帯

〔将来都市像〕若者や企業、研究機関が集う未来型都市

〔まちの特徴〕一級河川遠賀川が流れ、北九州市や福岡市へのアクセスも良好なコンパクトシティ

〔特産品〕ほのぼの味噌、丸石かまぼ



中間市長
福田健次



こ、赤と緑のトマトジャム、イチジク「とよみつひめ」、なかっぱまんじゅう
〔観光〕垣生公園、屋根のない博物館、月瀬八幡宮、遠賀川水源地ポンプ室
〔イベント〕筑前中間さくら祭、筑前中間川まつり、筑前中間やっちゃれ祭、枝豆狩り、ふるさと遠賀川親子凧あげ大会

となっており、ここで得られた広告収入は老朽化したマンホール蓋の取り換え費用などに充てられ、財政健全化や地域の活性化につながっています。そのほかにも2年で10を超える企業・大学と協定を締結し、産学官連携してまちづくりを進めています。これからも市民の皆さまと共にこれからの「新しい未来の中間市再生街づくり」実現に向けて、前進していく所存です。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。